

2023年3月1日改定

## 『JunCture 超域的日本文化研究』執筆要項

### 1. 論文タイトル

副題を付す場合、主題と副題の間に、全角2マス分のスペースに横棒線（——）を入れる。ただし、目次ではコロン（:）に置き換えることがある。副題の後には傍線を入れない。

### 2. 著者名

投稿時には著者名は入れない。採用後の最終原稿には、論文タイトルの下に著者名を入れる（所属名は不要）。

### 3. キーワード

投稿時には論文タイトルの下に5つのキーワード（日本語のみ）を入れる。採用後の最終原稿には、著者名の下に5つのキーワード（日本語のみ）を入れる。

### 4. 全体の書式

原稿は横書きとし、フォントはMS明朝、欧文と半角数字はTimes New Romanを用いる。文字の大きさは、本文が10.5p、脚注が9.0p

### 5. 句読点

和文は句点（。）と読点（、）を用いる。欧文では、ピリオド（.）とコンマ（,）を使用する。

### 6. 数字

原則として、数量や順序は算用数字。語句を構成する要素、慣用句、ことわざ、熟語は漢数字。1000までは算用数字。万、億、兆などは漢数字。微妙なケースは、論文中で一貫させることを条件に、著者の判断で使い分けを決めることができる。

### 7. 年代

西暦で表記し、必要に応じて元号を括弧内に併記する。

### 8. 書名・論文名等

- a) 書名、雑誌名、映画作品名、戯曲名、テレビ番組名、イベント名などは二重カギ括弧（『 』）。ただし、美術作品名は《 》。
- b) 論文名、記事名、詩の名などは一重カギ括弧（「 」）。

- c) 欧文による書名、雑誌名、映画作品名、戯曲名、テレビ番組名は、イタリック。欧文による論文名、記事名、詩の名などは、ダブルクォーテーションマーク (“ ”)。

## 9. 引用

- a) 一重カギ括弧 (「 」) に入れ、引用文に執筆者の補足を挿入する場合は [ ] に入れる。引用文中の引用は、小鍵の一重カギ括弧 「 」 を使用する。
- b) 数行に渡る長い引用は、前後を各 1 行空け、左側を全角 2 マス分インデントし、書き出しの前を一文字空ける。この場合、引用部の初めと終わりにカギ括弧はつけない (ただし、原文にカギ括弧がついてる場合はそのまま付す)。

## 10. 注番号の位置

文末では句点の直前に、文中でカギ括弧を使って引用する場合は終わりのカギ括弧の直後に挿入する。

## 11. 節・項

- a) 各節には見出しを付ける。数字を付けるかどうかは任意に決めることができる。
- b) 節の中に項を設ける場合は、節と項に数字を付ける。  
(節は、「1. 」、項は、「1-1. 」)

## 12. 欧文語の人名や地名など

原則としてカタカナで表記し、必要に応じてカッコを設けて原語を付す。

## 13. 図表

- a) 図表は、本文のファイルとは別に、フォルダーにまとめて提出する。その際、図表ごとに図 1、図 2、表 1、表 2 のようにファイル名を付ける。
- b) 同時に、キャプションの一覧を別ファイルで作成し、それも合わせて提出する。
- c) 本文には、図表のおおよその挿入箇所をハイライト機能により明示する。
- d) 著作権に関わる画像の掲載許可は、著者自身が責任をもって取得する。

## 14. 典拠

- a) 引用順方式 (バンクーバー方式) か挿入方式 (ハーバード方式) のどちらかを、著者の判断により選択することができる。それぞれ以下の b) と c) に準じる。
- b) 引用順方式 (バンクーバー方式) では、脚注により、引用文献を次の順で示す
  - 図書：著者名、書名 (二重カギ括弧)、訳者名、出版社名、出版年、頁。  
例：酒井直樹『日本思想という問題——翻訳と主体』岩波書店、1997 年、10 頁  
ミシェル・フーコー『知の考古学』慎改康之訳、河出文庫、2012 年、100 頁  
Thomas Lamarre, *Anime Ecology: A Genealogy of Television, Animation, and Game Media* (Minneapolis: University of Minnesota Press, 2018), p. 23.  
ジル・ドゥルーズ、フェリックス・ガタリ『千のプラトール 上——資本主義と分裂症』宇野邦一他訳、河出書房新社、2010 年、59～80 頁

- 図書所収論文：著者名、論文名（一重カギ括弧）、訳者名、編者名、書名（二重カギ括弧）、出版社名、出版年、頁

例：上野千鶴子「日本のリブ——その思想と背景」、上野千鶴子他編『新編 日本のフェミニズム 1——リブとフェミニズム』岩波書店, 2009 年

- 雑誌掲載論文：著者名、論文名（一重カギ括弧）、訳者名、雑誌名（二重カギ括弧）、号数、出版年月

例：酒井直樹「間太平洋政治の視座と帝國的国民主義」葛西弘隆訳、『JunCture 超域的日本文化研究』1号、2010年、14頁

- ウェブサイト：著者名、記事名、ウェブサイト名、URL（閲覧日は不要）

例：厚生労働省「労働経済の推移と特徴」『平成 25 年版 労働経済の分析構造変化の中での雇用・人材と働き方』<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/13/13-1.html>

- 再参照・再引用：直前の脚注を再参照・引用する場合は、「同前」「同前、」。英語文献の場合は、「Ibid.」「Ibid, pp. x-xx」直前より前の文献を再参照・引用する場合は、「著者の姓、書籍または論文の主題、頁」。

- 例：
5. 同前
  6. 同前、12~15 頁
  7. Ibid.
  8. Ibid., pp. 12-15.
  9. 酒井『日本思想という問題』、38 頁
  10. Lamarre, *Anime Ecology*, pp. 90-98.

- c) 挿入方式（ハーバード方式）では、本文中に、（フーコー 2012, 10）（Lamarre 2018, 99）のように示す。その際、

- 著者名と出版年の間は半角空け。
- ページは、出版年の後にコンマ（,）と半角スペースを入れて、その後に記す。p. は入れない。
- 二つ以上の文献を併記する場合は、文献と文献の間にセミコロン（;）と半角スペースを入れる。（フーコー 2012, 10; Lamarre 2018, 99; 酒井 1997, 40）
- 刊行年が不明の URL では、著者名のみ。
- 直前と同じ文献を参照する場合は、（Ibid., 70-78）
- 挿入した文献に対応するように、論文末尾に引用文献表を付ける。引用文献は、著者名の頭文字のアルファベット順（同一著者は、出版年の古い順）に並べる。各文献は、著者名、出版年、書名（二重カギ括弧）、訳者名、出版社名の順で示す。直前の参照・引用を繰り返す場合は、（Ibid., 50）

例：フーコー、ミシェル（2012）『知の考古学』慎改康之訳、河出文庫

厚生労働省「労働経済の推移と特徴」『平成 25 年版 労働経済の分析構造変化の中での雇用・人材と働き方』<https://www.mhlw.go.jp/wp/hakusyo/roudou/13/13-1.html>

Lamarre, Thomas (2018) *Anime Ecology: A Genealogy of Television, Animation, and Game Media*. Minneapolis: University of Minnesota Press.

酒井直樹（1997）『日本思想という問題——翻訳と主体』岩波書店

酒井直樹（2010）「間太平洋政治の視座と帝國的国民主義」葛西弘隆訳、『JunCture 超

域的日本文化研究』1号

上野千鶴子 (2009)「日本のリブ——その思想と背景」、上野千鶴子他編『新編 日本のフェミニズム 1 リブとフェミニズム』岩波書店

- d) 英語その他の欧文語の文献の典拠は、MLA に準拠する。

## 15. 英文要旨

- a) タイトルの主題と副題の間は、コロン (:) と半角スペース。
- b) 著者名は、by に続けて、姓をすべて大文字で、下の名前を最初だけ大文字で残りを小文字で、アルファベット表記する。by FUKUZAWA Yukichi
- c) 英語でキーワードを5つ示す。
- d) 日本語の人名は、原則として、姓をはじめに、下の名前をあとに書く。それぞれ、頭文字を大文字で、残りは小文字にする。例、Fukuzawa Yukichi。英語圏で、名-姓の順番で知られている人物の名前は例外とする。例、Naoki Sakai。
- e) 原則として、長音には長音記号 (macron) を使用する。例えば、工場は、*kojo* ではなく、*kōjō*。英語でそれほど流通していない人物名もこれに該当する。Tokyo のようによく知られている地名は、例外。
- f) 日本語を含め、英語以外の言語は、原則として、イタリック表記。
- g) 英語のネイティヴ・スピーカーによる校閲は、著者の責任で行う。

## 16. 採用後の最終原稿提出ファイル

- a) 原稿 (本文および脚注、引用文献を含む) のファイル形式は、Microsoft Word または Apple の Pages。ファイル名「姓名 a\_論文タイトル主題のみ」
- b) 同じ原稿の PDF 版。ファイル名「姓名 b\_論文タイトル主題のみ」
- c) 英文タイトル、5つのキーワード (英語のみ)、要旨 (300 語程度) を別のファイルにまとめる。ファイル形式は原稿と同じ。ネイティヴ・チェックは、執筆者の責任で行う。ファイル名「姓名 c\_英文要旨」 レビューは、英文要旨は不要、代わりに英文題目を提出する。ファイル名「姓名 c\_英文題目」
- d) 図版は、本文に貼り付けず、別ファイルにする。ファイル形式は JPEG、TIFF、PSD、PNG のいずれでも可能。ファイル名「姓名 d\_図 1」
- e) 図表のキャプション一覧を別ファイルで。ファイル形式は原稿と同じ。ファイル名「姓名 e\_図表一覧」
- f) プロフィール。原則として、①氏名 (日本語表記およびアルファベット表記)、②所属先、③職位または課程、④専門、⑤代表的出版物もしくは学会発表、公開作品などを3点。ファイル名「姓名 f\_プロフィール」  
[https://nagoya.repo.nii.ac.jp/search?search\\_type=2&q=2363](https://nagoya.repo.nii.ac.jp/search?search_type=2&q=2363)  
を参照のこと